

虹の松原で「マツタケ」確認

2007年11月11日に 虹の松原においてマツタケ（写真）が生育していることが確認されました。

ショウロはクロマツと共生関係にあり、クロマツが健全に生育するために大切なキノコです。それと同じように、マツタケ（学名：トリコローマ・マツタケ）はアカマツと共生関係にあり大切なキノコです。概して、アカマツ林で見られますが、まれにクロマツ林でも見られるそうです。

ショウロと同じようにマツタケも松林から人々が遠ざかり手入れされなくなったために、生育できずに、今は非常に珍しいキノコとなりました。

マツタケの研究者によると、マツタケはショウロの育成よりも10倍もの時間がかかるそうです。ショウロが3年で発生が見られるとしたら、マツタケは30年かかることとなります。マツタケの生育環境を整えるためには、まずはマツタケ発生場所付近（写真）の環境状態を確認することが大切です。

ちなみに、発見者はマツタケ発生場所を20年間観察していたそうです。

